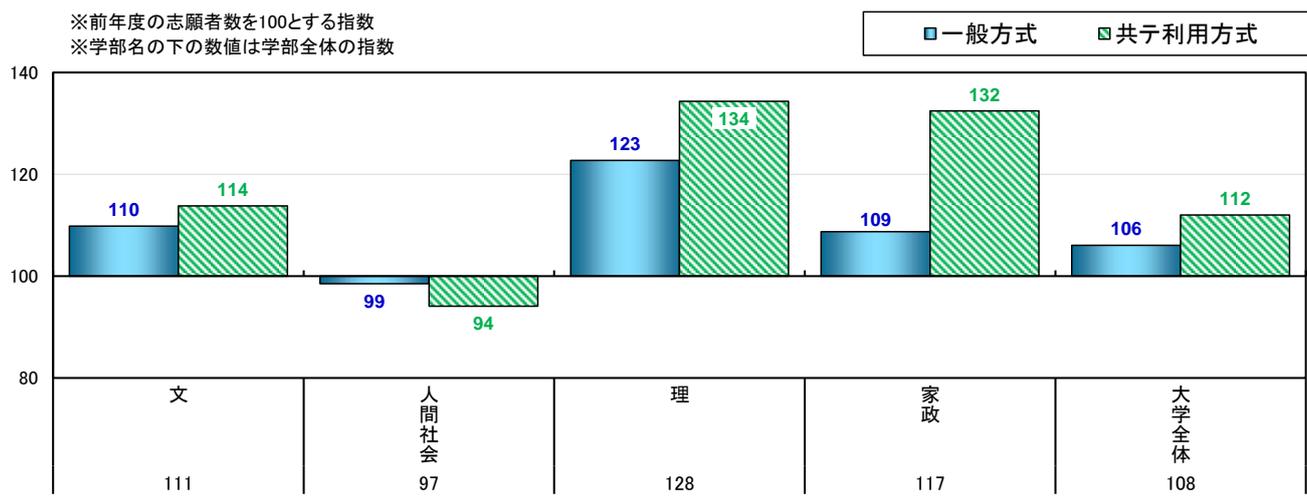


日本女子大：大学全体では3年ぶり増加も、人間社会のみやや減少 一般：+356人 共テ：+407人



<p><b>主な入試変更点</b></p>	<p>学科名称変更：理…(数物科学)→(数物情報科学)、(物質生物科学)→(化学生命科学)                  選抜方法：〈一般・英語外部試験利用型〉…TEAP220点以上→TEAP225点以上                  家政(児童)…〈共テ・後期〉新規実施                  募集人員：文(英文)…〈一般・個別〉73人→70人、〈一般・英語外部試験利用型〉5人→8人                  (日本文)…〈一般・個別〉72人→64人                  (史)…〈共テ・前期〉13人→15人、〈共テ・後期〉7人→5人                  人間社会(現代社会)…〈一般・個別〉60人→57人                  家政(家政経済)…〈一般・個別3教科〉3人→4人、〈一般・英語外部試験利用型〉3人→2人                  (児童)…〈一般・個別2教科〉57人→45人、〈共テ・前期〉7人→10人                  (被服)…〈一般・個別2教科〉40人→38人、〈共テ・前期〉9人→7人                  (住居/居住環境デザイン)…〈一般・英語外部試験利用型〉3人→2人                  (住居/建築デザイン)…〈一般・英語外部試験利用型〉3人→2人                  入試科目：家政(家政経済)…〈共テ・後期〉国+外+(歴公or数) ※歴公：日Aor日Bor世Aor世Bor地理Aor地理Bor現or倫or政or倫政                  →外+(国or歴公or数)→2 ※歴公：日Bor世Bor地理Bor現or倫or政or倫政                  配点変更：文(日本文)…〈一般・英語外部試験利用型〉国&lt;120&gt;+歴&lt;100&gt;=総点&lt;220&gt;→国&lt;150&gt;+歴&lt;100&gt;=総点&lt;250&gt;                  家政(家政経済)…〈一般・個別3教科型〉国&lt;100&gt;+数&lt;100&gt;+外&lt;100&gt;=総点&lt;300&gt;→国&lt;50&gt;+数&lt;150&gt;+外&lt;100&gt;=総点&lt;300&gt;                  〈一般・英語外部試験利用型〉国&lt;100&gt;+数&lt;100&gt;=総点&lt;200&gt;→国&lt;50&gt;+数&lt;150&gt;=総点&lt;200&gt;</p>
-----------------------	---

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、763人(108)の増加で3年ぶり増加。学部別では、人間社会(97)はやや減少だが、その他の3学部はいずれも増加。方式別では、一般方式は356人(106)のやや増加だが、募集人員(前年度募集人員対比指数97)が減少したことで、志願倍率は7.2倍→7.9倍へアップ。共通テスト利用方式は407人(112)の増加で3年ぶり増加。共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ前期〉(103)は2年連続大幅減少の反動はなくやや増加に留まった。共通テスト受験後に出願可能な〈共テ後期〉(211)は倍増以上、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

**<一般方式>**

- 文(110)**は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(日本文)(113)は2年連続減少の反動で増加、(史)(112)も増加で前年度の反動による増減が継続、(英文)(105)はやや増加。募集単位別では、(英文)〈英語外部試験利用型〉(123)は大幅増加だが、募集人員も増加(募集人員の前年度対比指数160)で志願倍率は41.0倍→31.5倍へダウン。(日本文)〈個別〉(103)はやや増加で、募集人員は減少(募集人員の前年度対比指数89)し志願倍率は6.1倍→7.0倍へアップ。
- 人間社会(99)**は、微減だが3年連続減少。学科別では、(現代社会)(120)は大幅増加で2年連続増加、募集人員は減少(募集人員の前年度対比指数95)で志願倍率は12.1倍→15.3倍へアップ。その他の4学科はいずれも減少で、特に、(文化)(79)は大幅減少で3年連続減少。
- 理(123)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、2学科とも学科名を改称したが、改称前の旧(数物科学)、旧(物質生物科学)との比較では、(数物情報科学)(129)、(化学生命科学)(117)でいずれも大幅増加。
- 家政(109)**は、前年度大幅減少の反動で増加。学科・専攻別では、(児童)(83)は6年連続減少で志願者数は200人を下回ったが、募集人員も減少(募集人員の前年度対比指数81)で、志願倍率は3.7倍→3.8倍へアップ。その他の6学科・専攻はいずれも増加、特に(住居/建築デザイン)(138)の大幅増加が目立った。方式別では、前年度は判定科目数や入試科目増加の影響で激減した〈英語外部試験利用型〉(173)が激増、募集人員は減少(募集人員の前年度対比指数81)で志願倍率は5.3倍→11.3倍へアップ。

**<共通テスト利用方式>**

- 文(114)**は、2年連続大幅減少の反動で増加。学科別では、(日本文)(132)、(英文)(119)は大幅増加で、いずれも2年連続大幅減少の反動。一方で、(史)(98)は微減だが2年連続減少。方式別では、〈共テ前期〉(107)はやや増加、〈共テ後期〉(203)は倍増以上で、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 人間社会(94)**は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(教育)(178)は激増。(心理)(102)は、微増で3年ぶり増加。その他の3学部はいずれも大幅減少。方式別では、〈共テ前期〉(83)は大幅減少で3年連続減少、一方で〈共テ後期〉(202)は倍増以上

で、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

- 理(134)**は、大幅増加で前年度の反動による増減が継続。学科別では、2学科とも学科名を改称したが、改称前の旧(数物科学)、旧(物質生物科学)との比較では、(化学生命科学)(151)は大幅増加で前年度の増減による反動が継続、(数物科)(114)は2年連続大幅減少の反動で増加。方式別では、〈共テ前期〉(129)の大幅増加、〈共テ後期〉(242)は約2.4倍増で、共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- 家政(132)**は、2年連続大幅減少の反動で30%以上の大幅増加。学科別では、(児童)(194)は倍増に近い大幅増加、新規実施方式の〈共テ後期〉を除いても、(169)の激増。(住居)(147)は大幅増加で4年ぶり増加、(被服)(136)は前年度半減以下の反動で大幅増加、(家政経済)(125)も大幅増加で前年度の増減による反動が継続。一方で、(食物)(81)は大幅減少で4年連続減少、志願者数は150人を下回った。方式別では、〈共テ前期〉(130)の大幅増加、〈共テ後期〉(229)は倍増以上、新規実施の(児童)を除いても(186)の激増。共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。